

# 平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	福山市立多治米小学校
-----	------------

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・残食率 主食 1.4%，副食 1.1%
- ・食べる時の姿勢や，食器の置き方など，食事マナーの定着が不十分。
- ・朝食を毎日食べる児童 79.5%（9月時点）

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・年間平均残食率 主食 2%以下，副食 1%以下
- ・好き嫌いなく食べる児童 85%以上
- ・食器の正しい置き方がわかり，正しく置く児童 90%以上

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

### 【取組 1】（テーマ） 残食を減らす

- ・毎日，残食がなかったクラスにスタンプを押し，月ごとにスタンプが多かったクラスを給食放送で紹介した。
- ・配膳時に，一度すべてをつぎ分け，その後，自分で量を調整することを徹底した。
- ・偏食傾向のある児童については，担任と連携し，個別に継続した声かけを行った。自分で食べきれる量を食べきることから始め，食べられたときにはがんばりを認めることで，食べきれたことに自信をもたせ，食べる意欲につなげた。

### 【取組 2】（テーマ） 食事マナーを定着させる

- ・給食時間に教室をまわり，食べる時の姿勢や，食器の置き方等について，1年間を通して継続的に行った。特に，食器の置き方の指導に重点を置き，教室に行った際には必ず声かけをすることで定着を図った。

### 【取組 3】（テーマ） 食への興味・関心を高め，自ら健康管理をする力をつける

- ・毎日，給食室前にその日の給食に関するクイズを掲示した。
- ・全学年に対して，朝食摂取の定着を目的として，年 2 回，養護教諭とともに生活リズムや朝食について指導を行った。

- ・5・6年生に対して、朝食摂取の定着を目的として、夏休みに栄養バランスを考えた朝食を作る宿題を出した。
- ・5年生の家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」で、だし入りのみそ汁とだしなしのみそ汁を飲み比べたり、6年生の家庭科「まかせてね今日の食事」で、献立作成から調理計画、買い出し、調理まですべて児童にさせたりする等、経験をもとに、自ら健康管理ができる力をつけることを目指した授業を行った。

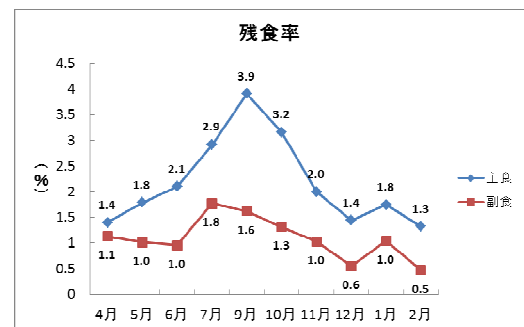
#### 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・夏休み子ども料理教室を実施し、受賞レシピの調理を行った。
- ・福山市が独自に実施した「福山レシピ賞」のレシピ集を家庭に配布した。

#### 5 取組に対する成果と課題

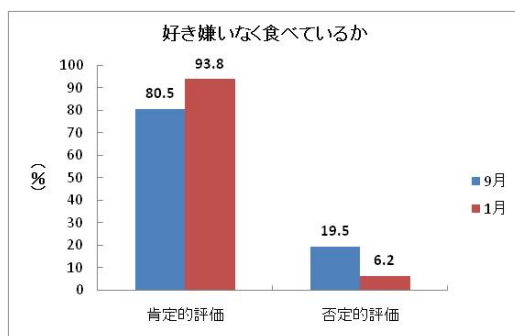
##### 【成果】

- ・残食率は、4月から9月まで増加したが、10月以降は減少傾向になり、2月には年度当初に比べて主食0.1%、副食0.6%減少した。

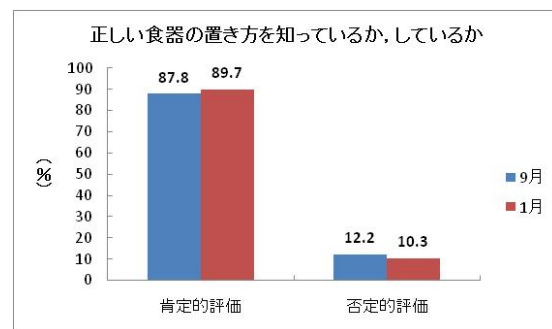


(図1)

- ・食事に関するアンケート項目「好き嫌いなく食べているか」において、肯定的評価が13.3%上がり、目標値を達成した(図2)。また、「正しい食器の置き方を知っているか、しているか」において、肯定的評価が1.9%上がった(図3)。

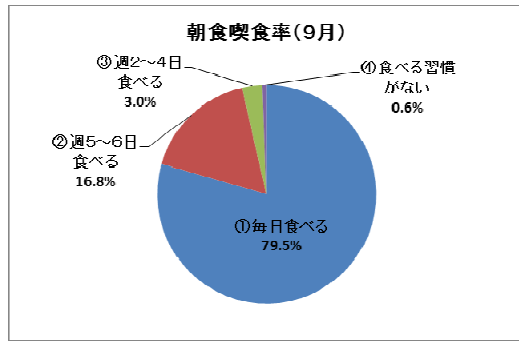


(図2)

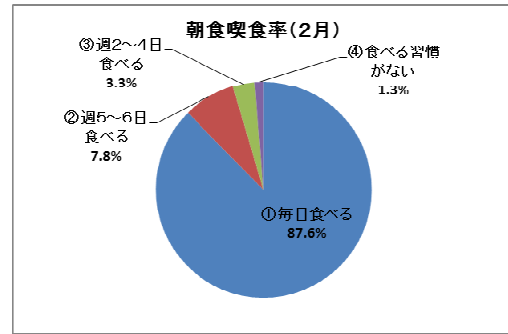


(図3)

- ・朝食を毎日食べる児童の割合が9月（図4）に比べて、2月（図5）には、8.1%増加した。



(図4)



(図5)

### 【課題】

- ・年間平均残食率は、主食2.2%、副食1.1%であり、目標値を達成できなかった。
- ・正しい食器の置き方がわかり、正しく置く児童は89.7%であり、目標値を達成できなかった。正しい食器の置き方が身につけていない児童が一定数いる。
- ・朝食を毎日食べる児童の割合は増加したものの、週2~4日しか食べない児童や、食べる習慣がない児童の割合にほとんど変化がないことから、朝食を食べる習慣が定着していない児童が固定化していると考えられる。

## 5 今後の取組に向けた改善方策について

- ・これまで行ってきた残食を減らす取組を継続する。また、教室での給食指導の際に、給食のおいしさのひみつ（使った食材や、給食ができるまでの様子等）を伝える機会を増やし、給食に興味をもたせ、食べる意欲につなげる。食事マナーの指導についても、継続して行う。
- ・朝食喫食率を上げるために、習慣が定着していない児童の生活習慣を把握し、個別に声かけを行う。また、全体に対する指導の場を増やし、繰り返し指導を行うことで、朝食の大切さに気付かせ、自分ができることを考えさせる。さらに、通信や給食試食会を通して、保護者に朝食の大切さを伝えるとともに、児童の規則正しい生活習慣の確立を促す。